

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス ぱれっと				公表日	R8年 5月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用定員に対して十分なスペースを確保し、安心して過ごせる環境づくりを続けています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		こどもの状態に応じた適切な職員配置を行い、丁寧な支援ができる体制を維持しています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		学習スペースや個別室を用途に合わせて使い分けするなど、生活空間を分かりやすく構造化できています。また、トイレの段差には手すりを設置するなど、安全に配慮した環境整備も行っています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		玩具やテーブル・床の消毒を毎日行い、活動後は施設全体の清掃と消毒を行うことで、清潔で心地よい環境を保っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて個別の部屋を使用できる環境を整え、落ち着いて過ごせる場を確保しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		毎朝のミーティングやケース会議を通して業務を共有し、職員全員で改善に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎年の保護者評価の結果を職員で共有し、改善できる点はすぐに取り組むようにしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		ミーティングや職員会議で意見交換の場を設け、意見を出しやすい雰囲気づくりを大切にしています。日々の気づきや提案を共有しながら、支援の質を高められるよう取り組んでいます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				現在は外部評価を実施していませんが、必要に応じて導入を検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		毎月の職員会議に加え、2〜3カ月に1回は4教室合同の会議や研修・訓練を行っています。外部研修にも積極的に参加し、学んだ内容を職員間で共有しながら、支援の質の向上につなげています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムをホームページで公開し、保護者の方がいつでも確認できるようにしています。今後も内容をわかりやすく伝えられるよう工夫していきます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		見学・契約時のアセスメントや日々の観察、保護者との情報交換を分析して計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		朝のミーティングや月1回の会議で情報共有を行い、共通理解のもとで支援を検討しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		児童発達支援計画を職員間で共有し、計画に沿った支援を丁寧に行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		統一したアセスメントシートや評価方法を用い、研修を通して振り返りも行っています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		ガイドラインに沿って必要な項目を設定し、こどもの特性に合わせた具体的な支援内容をまとめています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動プログラムは職員全員で話し合いながら立案し、協力して実施しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		日々の活動内容が固定化しないよう、工夫しながら支援を行っています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		こどもの課題に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせ、柔軟に支援しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝のミーティングでその日の支援内容や役割分担を確認し、連携して支援しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		重大な事案は当日中に確認し、翌日のミーティングで振り返りを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		全児童の記録を徹底し、翌日のミーティングで検証・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		全職員でモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当者会議には児発管を中心に、可能な限り支援に関わる職員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		保健・医療・福祉・教育などの関係機関と連携しながら支援を行っています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保育園やこども園などと情報共有を行い、インクルージョンの視点を大切にしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学に向けて、保護者から就学先の希望や配慮事項を聞き取り、施設での様子や支援内容を整理しています。必要に応じて学校側へ情報提供ができる体制を整えており、連携の機会がある場合には参加できるようにしています。	小学校との連携が十分に進められないことがあり、調整が難しい場面がある点が課題です。今後は、積極的に連携の機会をつくり、スムーズに情報共有ができるよう取り組んでいきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	-	-	-	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-	-	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-	-	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	1	研修や講座に参加し、支援に関する情報収集とスタッフ間での共有を行っています。	スーパーバイズや助言を受ける機会が十分に取れていないため、相談のタイミングや方法を整え、必要に応じて助言を受けられる体制を強化していきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		できる範囲で園とのつながりも少しずつ広げていけるよう工夫していきます。	園庭開放などを活用し、地域のこどもたちとの交流機会を広げていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳や送迎時に日々の様子を伝えていきます。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	家庭での理解が深まるよう、保護者の方へ情報提供や相談対応を行い、必要に応じて家庭での関わり方のポイントもお伝えしています。また、外部研修や講座の案内も行い、ご家族の対応力向上につながる支援を続けていきます。	無回答1 今後は、家族支援として行っている内容の共有の方法を見直し、スタッフみんなが分かりやすく確認できる仕組みを整えていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		運営規程や支援内容について、契約時や更新時に丁寧に説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		支援計画を示しながら説明し、保護者の意向を確認したうえで同意を得ています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		同上	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		子育ての悩みなどに適切に対応し、必要な助言や支援を行っています。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	月に一回の療育参観や親子レクを通して、保護者の方向士が顔を合わせる機会をつくり、支援内容についても理解していただける場を設けています。	仕事や家庭の事情で参加が難しいご家庭もあるため、今後は日時や時間の工夫を重ね、より多くの保護者の方が参加しやすい機会づくりを進めていきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	子どもや保護者が気軽に相談できる環境を整え、申し入れがあった際はすぐに日程調整を行っています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	SNSで活動や行事の様子を定期的に発信し、保護者への周知も丁寧に行っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	同意書に基づき適切に管理し、書類は鍵付き書庫で保管しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	子どもや保護者の方との意思疎通が円滑に行えるよう、わかりやすい説明や丁寧な対応を心がけ、必要に応じて伝達方法にも配慮しています。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	行事に兄弟児が参加したり、他事業所と一緒にレクリエーションを行うなど、子どもたちが自然にいろいろな人と関われる場づくりを大切にし、地域とのつながりを広げています。	無回答1 地域交流の取り組みについて、実施内容が職員間で同じように共有されていない部分があります。今後は、行事や合同活動の様子を簡単に共有し、スタッフ全員が把握しやすいようにしていきます。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	各種マニュアルを整備し、職員や家族へ周知するとともに、必要な訓練を実施しています。	無回答1 マニュアルや訓練の実施状況を共有し、全員が把握できるよう情報の伝達方法を整えます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	BCPを策定し、避難訓練などの非常災害に備えた取り組みを、定期的に行っています。	無回答1 訓練の実施状況や内容が十分に共有されていない部分があるため、今後は簡潔にまとめて共有し、全スタッフが取り組みを把握しやすいようにしていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	子どもが安心して過ごせるよう、健康面について、事前に丁寧に確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	重度の卵アレルギーのある児童が1名いるため、おやつはご家庭から持参していただいています。他のお子さんのおやつが混ざらないように気をつけ、食べ終わったあとは周囲をきれいにし、安全に過ごせるよう配慮しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	安全計画を作成し、それに沿って必要な研修や訓練を行い、安全管理に十分配慮した環境で支援を行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	子どもが安心して過ごせるよう、安全計画の内容を家族にも丁寧に伝えながら、一緒に連携できるようにしています。	安全計画の周知は行っているものの、保護者によって理解度に差があるため、今後はより分かりやすい情報提供方法を検討し、家族との連携強化に努めていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	報告書を作成し、事業所内だけでなく4教室全体で共有することで、情報を広く行き渡らせ、再発防止に向けた検討を行っています。	報告書の共有が4教室全体でスムーズに行き届かないことがあるため、これからは内容をわかりやすくまとめて共有し、みんなで同じ情報を確認できるようにしていきます。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	宜野湾市および自立支援協議会主催の研修を中心に、全職員が積極的に受講し、支援の質向上に努めています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	やむを得ず身体拘束が必要となる場合については、組織として方針を定め、子どもや保護者へ事前に丁寧に説明し、了解を得た上で児童発達支援計画に記載する体制を整えています。現在、身体拘束の対象となる子どもはいません。		